

第3回地域活性化の推進に関する関係閣僚等会合

(議事概要)

日時：平成26年5月29日(木) 17時10分～17時25分

場所：総理官邸 4F大会議室

出席者： 菅内閣官房長官(議長)

新藤地域活性化担当大臣兼総務大臣(副議長)

甘利経済再生担当大臣兼内閣府特命担当大臣(経済財政政策)

富岡文部科学大臣政務官

土屋厚生労働副大臣

林農林水産大臣

磯崎経済産業大臣政務官

太田国土交通大臣

北川環境副大臣

加藤内閣官房副長官

杉田内閣官房副長官

関口内閣府副大臣

伊藤内閣府大臣政務官

【議事概要】

○ 新藤副議長

それでは皆様お集まりいただきありがとうございます。ただいまより、第3回地域活性化の推進に関する関係閣僚等会合を開催いたします。

本日は、前日に公募をかけることを決定をした地域活性化モデルケースの選定をするとともに、成長戦略の改訂等に向けた「地域活性化プラットフォーム」に関し、ご議論いただきたいと思っております。

まず、私の方から、資料に沿って、ご説明いたします。

資料1をご覧ください。1ページ目はワーキングチームの名簿で、2ページ目をご覧ください。ただきまして、前回の関係閣僚等会合を受けまして地域活性化モデルケースの公募を開始し、4月に締め切りました。全国から135件の提案がありました。これらに対し、まず専門家で構成されるワーキングチーム等により書面評価を行い、ヒアリング対象として65件を選定いたしました。これを5月に、3日間、特に朝8時から夜8時までお昼をのぞ

いて缶詰めでやっていただくこと等々、約22時間かけて、65件のヒアリングを行い、検討を行って、最終的に33件がモデルケース選定案として推薦されております。

具体的な選定案につきましては、3ページをご覧くださいますと、地方都市型10件、農山漁村・過疎地域等型6件、地元地域資源活用型5件、広域地域資源活用型6件、産業集積活用型6件ということで、それぞれ次のページに個別のものがございしますが、その中で次点という形で、評価すべき点がある提案という位置づけで、8件を次点としています。これらの合計33件の選定案は、8府省の50の事業が複合化された、そういうパッケージ提案になっているところであります。本日、この選定案について、ご了承をいただきましたら、来週以降、各関係省庁の課長級で構成される政策対応チームやワーキングチームの専門家が、選定モデルケースの首長等と膝詰めでご相談させていただく「総合コンサルティング」を順次行い、各モデルケースの提案を具体化していきたいと考えております。こうした取組によりまして、関係府省の関係施策を横串を刺して重層的に、かつ、最大限支援してまいりたいと思いますので、各省庁におかれましては、事務方へのご指示をよろしく願います。

続きまして、資料2-1「地域活性化プラットフォームの取組」をご覧ください。これはまさにコンセプトペーパーでして、まず、ミッション、使命として「地域の力で、日本の元気を取り戻す」、そして、目標であるビジョンとして「アベノミクスの成果を全国津々浦々に届ける。超高齢化・人口減少社会における持続可能な都市・地域の形成、そして、地域産業の成長・雇用の維持創出」を目標とするということであります。そしてこれを達成するための手段としまして、まずは強力な推進体制、これが閣僚等会合であり局長級、課長級会合で地域活性化プラットフォームを形成していただいております。ワーキングチームによるPDCAサイクルを回していく。更には、選択と集中・複合によるワンパッケージ化を図る。更には地域の多様性・発意を活かす規制制度改革、地域の資源と資金を活用した取組への支援を考えております。

もう1ページめくっていただきますと、このようなアプローチにより、国土交通省が実施している「国土のグランドデザイン」との連携、更には地域活性化関連計画との連携等のワンストップ化、構造改革特区制度等との連携、更には新たな支援策の創設等について、集約ネットワークだとか定住化や交流人口増等に向けた支援など、使い勝手の良い支援など地域の主体的な取組みへ伴走支援していこうというようなことを検討していきたいと考えております。

今後のスケジュールについては、資料3をご覧ください。本日、ワーキングチームの推薦案をご了承いただきましたら、先ほどご説明した「総合コンサルティング」を順次実施し、いくつかのモデルケースについては、6月中旬に予定されている次回関係閣僚等会合の場で、首長等からご報告をいただく予定にしております。

また、新たな方策については、各府省の協力を得て取りまとめた結果について、次回関係閣僚等会合の場でご議論いただきたいと思いますと考えています。これらの取組を踏まえて、年央

の成長戦略の改訂へとつなげていく予定です。

それでは、ただ今ご説明申し上げた内容に関し、ご議論いただきたいと思います。
では、林大臣どうぞ。

○ 林農林水産大臣

安倍総理が仰っておられます「アベノミクスの温かい風を全国津々浦々に広げていく」。これを実現していくためには、地域の中核的な産業であります農林水産業の振興、農山漁村の活性化が不可欠であると考えています。豊かな地域資源が農山漁村にはございますので、これらの潜在力を引き出すことにより、雇用の場や所得の確保を進めることが柱となるものと考えております。今回ご選定いただいた33件のうち農林水産省の施策が含まれるものが25件に上るということで、我々としても各省と連携を密にして、モデルケースの円滑な実施が可能となるよう支援してまいりたい。魅力ある農山漁村づくりというものは我が省においても大事な課題でございますので、地域創生のための新たな方策についても、各省庁とも連携して、積極的に対応してまいりたい。

○ 新藤副議長

ありがとうございました。では、続いて太田大臣どうぞ。

○ 太田国土交通大臣

地域が消滅する危機に直面しているなか、地域活性化を実現するためには、拡大したまちをコンパクト化することが必要だと考えております。そのため、今国会におきまして、2つの法律を成立させていただきました。医療・介護、商業等の生活サービス機能と居住をまちなかに誘導して、拠点間を結ぶLRT、コミュニティバスなどの公共交通を再構築するものです。今回選定されるモデルケースの都市・地域の中には、この新たな制度をはじめ、国土交通省の各種支援策の活用が見込まれます。国土交通省としても、何と云っても構想とか知恵とか、実行力が大事なので、しっかりと支援していきたいと思います。地域再生法の改正の検討については、新たな国土のグランドデザインとの連携も念頭に入れているということですので、夏頃までのとりまとめに当たりましては、地域活性化の視点もしっかりと盛り込みたいと思います。また、国土交通省が所管する各種まちづくり関係の計画との連携等についても、共通のプラットフォームづくりに積極的に貢献したいと思っております。

○ 新藤副議長

ありがとうございました。では、北川副大臣どうぞ。

○ 北川環境副大臣

環境省といたしましては、地域資源の活用については、再生可能エネルギーの導入や省エネルギーの推進、リサイクル、里地の保全など、地球温暖化対策、資源の循環、自然との共生など、環境政策の分野でも大きな効果につながりますので、今後とも環境省といたしましては、各省と連携して地域の取り組みを積極的に支援してまいりたいと思います。

○ 磯崎経済産業大臣政務官

経済産業省でございます。日本再興戦略に基づいて設置されました地方産業競争力協議会は、今年3月末に全国9ブロックすべてで地方版成長戦略に関する議論の取りまとめを行い、4月21日に、甘利経済再生担当大臣に報告が行われております。先ほどご説明いただきました地域活性化モデルケースでは、この地方版成長戦略を実行する際の重要な政策ツールとして位置付けておりまして、実際にこの地方版成長戦略の議論を踏まえた提案が多数ございました。例えば、先ほどご説明いただきました資料1の7ページ目でございますが、その4番目に広域地域資源活用型ということで近畿地域一帯の神社に伝わる「歴史・伝承」とそれにちなんだ「お菓子」を組み合わせた新たな観光ルートの開発による交流人口の増大を目指す「橘街道プロジェクト」が、採択されております。次の8ページ目の一番目でございますけれども、この他、地方版成長戦略における戦略産業の育成に資する産業集積活用型では、東北が一体となって東日本大震災などからの復興を目指す自動車産業と医療機器産業によるものづくり産業を戦略的に育成する取組などが選定されています。今後、地方版成長戦略の実行と地域産業の成長・雇用の維持創出に向けて、選定されたモデルケースに対しまして、経済産業省としましても、関係省庁とも連携しながら支援してまいりたいと思います。

○ 新藤副議長

ありがとうございました。それでは、甘利大臣どうぞ。

○ 甘利経済産業大臣

昨年の日本再興戦略を受け、地方版の産業競争力会議である「地方産業競争力協議会」におきましては、地域ブロックごとに地域の戦略産業について議論を重ね、地方版の成長戦略を取りまとめました。今回のモデルケースの選定は、この地方版成長戦略実現の第一歩でありまして、歓迎したいと思います。先月知事の方々と地方版成長戦略について意見交換を行いまして、19日には経済財政諮問会議と産業競争力会議の合同会議で報告をいたしました。その際には、①として、人口減少社会において集約化とネットワーク化が重要といった議論や、②として、今回モデルケースとして選定される地域のように、本気度のある地域を支援していくべきといった議論がなされました。現在、年央の成長戦略の改訂に向けた作業を進めているところでありますが、地域活性化については、そのような議

論を踏まえて施策を盛り込んでいきたいと考えております。各省におかれましては、今後の調整にご協力をお願いしたいと思います。

○ 新藤副議長

それでは様々なご意見をいただき、ありがとうございました。本日、私からご説明させていただきました「地域活性化モデルケースの選定案について」は、これをもって関係閣僚等会合決定といたしたいと思いますがご異議ございませんでしょうか。

○ 一同

異議なし。

○ 新藤副議長

ありがとうございました。それでは、この地域等を選定させていただきたいと思います。ちなみに今回の公募では、電子申請を最大限に活用していただいておりますので、ご報告させていただきます。最後に菅議長からご挨拶をいただきたいと思います。

【プレス入場】

○ 新藤副議長

それでは、菅議長よろしく申し上げます。

○ 菅議長

本日、「地域活性化モデルケース」計33件について、ワーキングチームからの推薦された案を踏まえて関係閣僚等会合として選定しました。選定されたモデルケースについては各省がしっかりと連携して地域の取組みを支援して、スピード感をもって具体的な成果を出していただきたいと思います。また、新藤大臣からご説明いただいたように政府一体となった取組みをさらに推進するために、地域創生のためのプラットフォームを構築し、各施策について統合的な運用を図っていただきたいと思います。このため、今後、各省で協力の上に、地域再生法の改正に向けて検討を進めて頂きたいと思います。加えて、モデルケースの推進及び地域再生法の改正の検討を通じて、地方にとって使い勝手の良い新たな支援策を検討していただきたいと思います。『アベノミクスの温かい風を全国津々浦々に届ける』このことは政府の重要な課題であります。年央に改訂される予定の成長戦略の柱となるように、関係閣僚等においてはご協力いただきたいと思います。

【プレス退場】

○ 新藤副議長

ありがとうございました。これをもちまして、第3回の会合を終了したいと思います。
次回の日程については、後日連絡いたします。ありがとうございました。

以上